

# RGZ-091

## Re-GZ

リ・ガズィ

第三世代MSの代表格であり、圧倒的性能を誇るZガンダムの改修型試作機。高性能な反面、開発コストの高騰によって量産の妨げとなっていたZガンダムの基礎設計を見直し、簡易変形機構ともいえるBWS(バック・ウェポン・システム)の導入を決定。無重力環境下における高速巡航と高機動戦闘を可能とする機体に刷新された。だが最終的に複数機が建造されるに留まり、機体はロンド・ベルに配備されている。



### 基本データ

全高	20.5m
全長	24.7t
全幅	55.2t
装甲材質	ガンダリウム合金
推進力	2,550kw
推進力	67,600kg
推進力	18,900m
武装	ビーム・ライフル×1 ビーム・サーベル×2 2連装グレネードランチャー(腕部、腰部)×4 頭部バルカン砲×2 シールド(ハンド・グレネード×3) BWS (メガビーム・キャノン×1 ビーム・キャノン×2) アムロ・レイ ケーラ・スゥ

### MS Bible 22

#### CONTENTS

■ 戦場レポート アクシズ攻勢・前哨戦	01	■ MS戦記 リ・ガズィ 戦記の記録	16
■ MS機体解析 機体解説 武装解説	05 10	■ MS進化論 リ・ガズィ 開発系譜図	18
■ 関連MSラインナップ リ・ガズィと関連機体	12	■ メカニック・ジャーナル 試作機と主力量産機 シャアの反乱	20 30
■ MSパイロット ケーラ・スゥと関連人物	14	■ ガンブラ ジェネレーション BWSによる特徴的な変形機構を再現!	34













『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』より

# アクシズ攻略・前哨戦



## 運用MS ロンド・ベル

反地球連邦政府活動の取り締まりを目的に設立された外郭新機隊で、組織の中心人物はブライト・ノアやアムロ・レイといった元ホワイトベース乗員。連邦軍本軍の協力を得られないまま、アクシズを占拠したネオ・ジオンに対して戦闘を開始した。



RGM-89  
JEGAN  
ジェガン



RX-93  
ν GUNDAM  
νガンダム

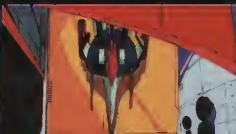
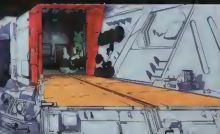


新機隊戦闘型  
(スペース・ファイター)



RGZ-91 Re-GZ  
リ・ガズィ

本隊として知られるνガンダムの部隊を目的に開発されたMS。専用機種のMWSを使うことで、新機隊戦闘型に変形できる。



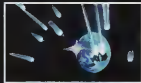


地球連邦政府高官と停戦交渉のテーブルにつき、戦力放棄の見返りにアクシズを譲渡されたシャア・アズナブル。だがすべては巧妙なフェイクであり、ルナツーに投降すると見せかけたネオ・ジオン艦隊がルナツー基地を強襲。駐留する連邦軍艦隊を屠っただけでなく、その地に保管されていた核弾頭を強奪した。核弾頭ごとアクシズを地球に落とし、「核の冬」を起こす——人類への粛清こそがシャアの狙いだったのだ。一方、いち早くシャアの意図に気付いたロンド・ベルは独自に艦隊行動を開始。

地球に向けて移動を始めたアクシズ周辺宙域で、ネオ・ジオンMS部隊との戦端が開かれることになった。

## 戦闘宙域

U.C.0072、ジオン公国が資源探掘用に開発した小惑星がアクシズである。火庫と木星の間に広がる小惑星帯に位置しているため、木星ヘリウム鉱山の中継基地としても利用された。一年戦争後は公国軍残勢力の潜伏場所となり、U.C.0087.10.12に地球圏に移動。第一次ネオ・ジオン戦争後は地球連邦政府の監視下に置かれていたのだが、シャア率いるネオ・ジオンに占拠され、「黒石落とし」に利用されている。



核バルス・エンジン・ノズル

■アクシズ全貌（後方に見えるのは移動用核バルス・エンジン・ノズル）。

## 運用MS ネオ・ジオン

シャア・アズナブルを総帥とする反地球連邦組織。地球を統治人類を粛清すべく「黒石落とし」を実施するが、それは自向きの理由であり、強制的に人類を宇宙に移住させ、ニュータイプへの道を走らせることがシャアの真意だった。



MSN-03

JAGD DOGA GYUNEI USE

ヤクト・ドーガ(ギユネイ機)

キラ・ドーガを母体とするニュータイプ専用機。ギユネイ機は近接・強襲戦に適した武装を有する。



AMS-119

GEARA DOGA

ギラ・ドーガ



MSN-03

JAGD DOGA GUSS USE

ヤクト・ドーガ(グス機)



MSN-04

SAZABI

サザビー

## HISTORY TIMELINE 一 戦闘の展開

### ■死闘の果ての悲劇

リ・ガズィのパイロットとしてロンド・ベルMS隊の先鋒を託されたケラ・スは、地球落下コースに入ったアクシズの破壊軌道コース変更を試みる。だが任務に固執しすぎたあまり、接近してきたヤクト・ドーガ(ギユネイ機)への対応がおろそかになり、機体は大破。さらに自分自身もヤクト・ドーガに捕縛され、救済に駆けつけたアムロ・レイに対する人質に利用されることになってしまった。

ヤクト・ドーガと機体捕縛の攻撃を前に機体を見るリ・ガズィ。ついには自力行動が不可能になってしまう。



接近するアムロに警告しようとしてケラはハッチを開放するが、そこを狙われて、ヤクト・ドーガに捕縛されてしまった。

ケラの命を引き換えにキャプダムに拘束されるアムロ。だがサイコ・フレームの強制反応が想定外の悲劇を引き起こしてしまう。





# MS 機体解析



RGZ-91 Re-GZ

リ・ガズィ

## 変形とは異なる手法で 機能の再現を目指した Zガンダムの簡易量産機

MSZ-006 Zガンダムは単体での大気圏突入能力をはじめとする全領域対応可変MSの性能をもって、以降のMS開発に大きな影響を与えた。だが、その高度な運用性の再現は容易ではなく、量産化に際しては一部の機能を省くことでコストダウンが図られた。RGZ-91 リ・ガズィは、そうした背景で開発されたZガンダムの簡易量産機である。

リ・ガズィは、地球連邦軍外郭新機部隊ロンド・ベルの戦力拡充に並行して開発が進められ、U.C.0091にロールアウトしたとされる。機体名は「リファイン・ガンダム・ゼータ」の略称に由来し、Zガンダムの変形機構を廃して、新たなオプション装備であるバック・ウェポン・システム（BWS）を用いた簡易変形を採用した設計を特徴としている。それでも他のMSに比べてコスト高だったため、量産化には至らなかった。



ネオ・ジオンのNT専用機に對抗するために開発され、アム・ロレーの乗機として運用されたが、性能不足は否めなかった。



開発当初は1機のみが生産されるに留まっていたが、U.C.0095の時点でロー・カイラムに配備された機体が確認されている。

### ■機体比較



RX-93  
v GUNDAM  
22.0m

RGZ-91  
Re-GZ  
20.5m

MSB-03  
JAGO-DOGA  
21.0m

高遠隔視認性は大型の印象を受けるが、MSでの運用時は20m程度で大型機と同等のサイズではない。Zガンダムの設計をコピーしたスマートなフォルムを特徴とし、脚部や腕部にそれが色濃く現れている。



同スケール  
パイロットとの対比。

RGZ-91  
Re-GZ  
Front view



# MS 機体解析 機体解説

## ZガンダムのMS形態のみをコピーすることでコストダウンと性能維持の両立を図った設計

Zガンダムのムーバブル・フレームは、基本構造のコピーが容易で強度にも優れるという特徴を有していた。リ・ガズィの設計はそれを生かしてMS形態の構造のみをコピーすることで、コストを抑えつつ原型機の性能の再現を図っている。また、本機は計画から建造までに数年を要したが、その間に実用化された技術やデバイスを各部材に用い、原型機に迫るスペックを獲得していたとされる。なお、本機の開発はAE（アナハイム・エレクトロニクス）社が担当し、アムロ・レイも開発に携わったと言われている。

### ■頭部

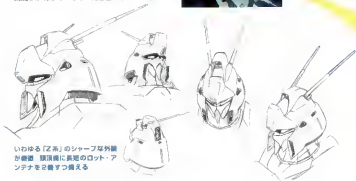
頭部は信頼性や歩留まりの観点から、RGM-89 ジェガン系のモニタリング用録画や主監視カメラを用いていたとされる。一方、本機はバイオセンサーを仮装しており、その周辺機器には独自のデバイスを採用し、パイロットに近似的な設定が可能だったという。また、頭部にはバックウェポンシステム（BWS）の遠隔操作やドッキングコントロールを行う相互通信システムも設けられていたが、あくまで最低限の機能しか有していなかったと言われている。



ガンダムタイプMSと同じデュアルカメラを採用しているが、V字型アンテナは被装されていない。



後述の中継状態でも頭部ユニットはほぼ無損だったが、全米屋用モニターには不具合が生じていた。



いわゆる「Z系」のシャープな外観が特徴。頭頂部に固定のロット・アンテナを2機ずつ備える

### ■胴体

胴体はZガンダムの変形機構を廃したうえで、構造強度を保つ設計がなされていたと言われる。また、設計変更によって小型化したサブジェネレーターの増設が可能となり、機体稼働の信頼性が向上していたという。背部にはフライング・アーマーに替えて左右に分割された構造のバックパックを装備し、その中央にはスタビライザーを配している。バックパックは片側につきスラスター1基と、後方に向けた2基のブースターノズルをハッチ内部に備えていた。



機体リアアーマーにもサブスラスターを備え、主力MSとは一線を画す優れた機動性を確保した。



中継状態の胴体周辺部には、高圧のガンダリウム系合金が装填されていたと言われる

機体ユニットの外形は原型機に近い。頭部フロントアーマーなど、機体両側には計20機の密着型機用バーニアを備える。

RGM-81  
Re-82  
Rear view



ビーム・サーベルを備えるリ・ガズィ、BWSを装備することで通常のMSと異なるような機動能力を獲得する。しかしシアアの専横（サザビー）と対峙するのに機動力不足は否めなかった。





## ■コクピット

コクピットは一般的なMSや原型機と同じく腰部に位置している。その内部構造は全天周モニターにリニア・シートという標準的な仕様に加え、U.C.0090年代初期の最新インターフェイスであるアームレイカーを採用した点を特徴としている。ただし、Z系列機は操縦系がデリケートで先鋭的な挙動を示すという欠点を抱えており、それは本機にも共通していたとされる。



リニア・シートはシェガンのものでよりヘッドレストがやや大きく、フロントパネルの構造も異なる。

## コクピット・ハッチ展開構造

コクピット・ハッチ展開①  
時は、胸部中央装甲が上方にスライドし、腰部のコクピット外部ハッチが運動して上部に開く構造となっている。



## ■胸部

本機の胸部は通常の作業肢としての役割に加えて、BWS 装備時の胴体支持構造を兼ねている。そのため、ユニット設計においては信頼性や堅牢性が重視され、原型機の構造を単純化しうえてシェガン系のフレームや部材を用いることで、その基準を満たしていたという。また、変形機構を施してそれに関する機能を省略したことも、信頼性の向上に繋がっていたと考えられる。



マニピュレーターには標準的な機構として、ダミー・バルーンの射出機構を内蔵している。

定数には収納式のフックが4個取り付けられており、機体周囲に展開することで機体を安定させる。



フック



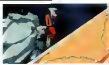
胸部は原型機の基本構造を継承しており、形状や展開後のスラスター配置なども似通っている。

## ■中破状態

ロンド・ベルに配備された本機は「シャアの反乱」のアクシズを追る攻防戦において中破し、パイロットのケータ・スウも戦死した。右がその際の破損状況で、戦闘能力をほぼ失った状態だった。その後、ラーカイラムに回収された機体はメインエンジンの1基が応急修理されたものの、チェーン・アギによって持ち出されて遠征のなかで喪失することとなった。



回収された機体は修理半ばでカタバルトに準備されていたが、チェーンが爆発して出動した。



ギョネイ・ガスが爆発する瞬間に当量されて両脚は破損される。そのため機体は破損されずに残ることになった。



右腕部と右脚部、左バックパックとスライダライザーなどを失っていた。上は破損した右腕部の外観。



# MS 機体解析 機体解説②

## ウェイブライダーの一部機能を再現した オプションによる航宙戦闘機への簡易変形

リ・ガズィは量産化の障害となる変形機構を廃する一方で、Zガンダムの高航形態であるウェイブライダー(WR)の機能を専用オプションに集約することで、変形を介さずにそれと同等の運用効果を得ようとした。それが「バック・ウェポン・システム(BWS)」による簡易変形機構である。BWSを装着した本機は「高速巡航形態」もしくは「スペース・ファイター」と呼ばれ、WRのような大気圏内運用能力は持たない。だが、航宙戦闘機として優れた性能を有し、限定的な導曲においては原型機に匹敵する運用性を示したのである。



BWSを装備したリ・ガズィは、特定の戦術においてはWRを凌ぐ運動性能を発揮したと評価される。

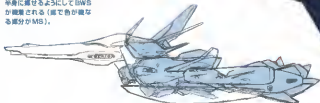


優れた空対空戦性能を備えており、アムロが搭乗した際にはオールレンジ攻撃すら可能としている。

RGZ-91 Re-ZZ  
Space Fighter Mode

BWSでWRを造ったシンプル高航形態だが、果た目は大きく固定わりして回り、宇宙戦闘機そのものである。

うつ伏せになったリ・ガズィの上半身に写せるようにしてBWSが位置される(左で色が異なる部分がMS)。

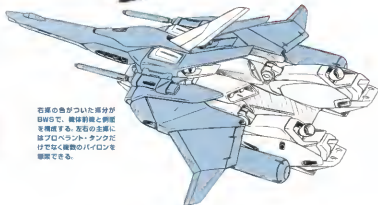


### ■構造

BWSはMSに巡航形態の機能を付与する設計思想に基づいている。そのベースとなったのは「Z計画」の設計案のひとつであるR型(MSZ-006R、またはRGZ-006とも)と書かれ、FXA-050 GディフェンサーやFXA-08R メガライダーのノウハウも導入されていたという。いわば本機専用のサブ・プラットフォーム(SFS)だが、推力の大半をMS本体に依存しており、ドッキング時にMSの自由が利かなくなるなどの欠点もあった。

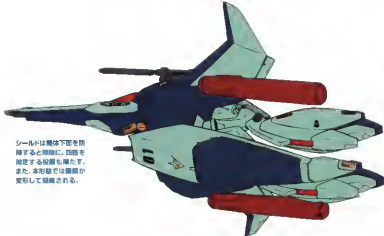


BWSの背面には宙空戦闘用バーニアが配されており、方向転換に用いられた。また、機首視界の上側には熱センサーを備える。



右側の色がついた部分がBWSで、機体前部と側面を構成する。左右の主翼に360度回転・タンクだけでなく複数のパイロンを装備できる。





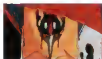
シールドは機体下面を防御すると同時に、四銃を固定する役割も果たす。また、本形態では関節が変形して短縮される。



MS 本体は完全に防衛されているわけではないが、BWSは小型ミサイルを撃てれば倒される危険を有していた。

## ■運用

高速巡航形態では、本機はBWSの固定兵装によって火力が増強され、プロペラント・タンクなどにより継続能力も向上する。また、推力方向が後方に集中されることで一挙脱離に適した機体特性を獲得し、監視機としての運用が可能となる。ロード・ベールの運用においても、巡航能力を生かして先鋒を担うケースが見られた。



高速巡航形態でラーク・カイルムから発艦するリ・ガスィ。防衛網には主翼を折り降む。

アクシスの地球降下阻止を断った際一次攻撃では、一度はMS陣の先鋒を切って陣中に突入した。

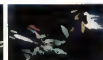


アクシス攻勢において防衛を受けた状態。立主翼を失っているが、航行に支障はなかった。

## ■変形シークエンス

前述のように、本機はある程度遠隔操作する機能を備えていた。だが、MS形態に移行する際に除装したBWSの制御は現実的ではなく、戦闘中に再乗するケースはほとんどなかったという。下は高速

巡航形態からMSに移行する際のBWSの分離シークエンスを示したもの。BWS側に誘導装置が搭載されていないことから分離後に再度、BWSと合体することは不可能だったと思われる。



BWSの分離は一瞬で行われ、変形時の遅延は数秒間よりも少なかったとされる。しかし、シールドの保持などに失敗する確率も高かった。

### ①高速巡航形態



BWS 防衛網は機体背面が固定されているため、MSとしての機動性はまったく変換できない。

### ②ジョイントの解除



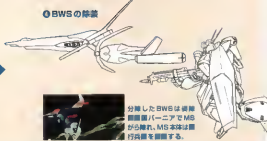
BWS 左右のユニットが上下に開いて機体の固定が解除され、MSの脚部が変形する。

### ③MSの姿勢変更



ジョイントの解除とともにシールドがBWSから外れ、MS本体も機動の可動が可能となる。

### ④BWSの除装



分離したBWSは遠隔制御用バーニアでMSから離れ、MS本体は航行兵器を制御する。

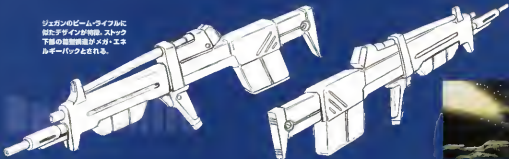


# MS 機体解析 武装解説

## 汎用性を重視したMSの標準的なスタイルに 攻撃力に優れるBWSを上乗せした兵装の設計

変形機構を廃してZガンダムのMS形態をコピーするというリ・ガジの設計思想は、MSと高速巡航形態の兵装を完全に切り離した仕様にも表れている。MS形態はBWS装着時の共用を考慮に入れず、原型機に準じたバランスのよい兵装群を採用。一方で、BWSには接近戦を度外視した大火力の固定兵装を装備し、航空戦闘機としての攻撃力を追求している。また、各種兵装は独自のコンセプトに基づいた本機の専用装備として開発されているが、デバイスやパーツは信頼性を重視した部材が用いられていたという。そうした点も、量産化を目指した本機の特徴と言える。

ジェガンのビーム・ライフルに似たデザインが特徴。ストック下部の照準装置がメガ・エネルギーバックとされる。



左は収納状態でビーム弾頭が伸びている。戦闘時には右のように発射部が伸びてビーム刃が形成される。



ビーム・ライフルを発射する瞬間。銃口周辺にビームの粒子が凝集している様子が見える。

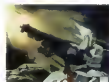


戦場の瞬間までビームの形を伝えるリミッターは、当時の標準的な機能として多くのMSに採用されていた。



### ■ビーム・ライフル

MS形態の主兵装として運用されるビーム系連射式武器で、出力は38MWとされる。従来のものに比べてエネルギーCAPシステムが改善されており、マガジン(Eバック)には「メガ・エネルギーバック」と呼ばれるユニットが採用されていた。高速連射形態ではリミッターが収納されて使用不能となるが、MS形態への移行時に瞬時に取り出して連射することが可能。そのため、変形時の無防備な時間は原型機よりも短かった。



ビーム・ライフルを発射するリ・ガジ。ジェガンのものと比べると威力と射撃に優れている。

5thルナで登場するジェガンではビーム・ライフルによる攻撃でユニウス・ギアのMSGN-Q3、ヤクト・ドーガを破壊している。



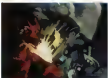
### ■ビーム・サーベル

MS形態でのみ用いられるビーム系近接戦闘用兵装で、2基装備されていた。出力は0.77MWで、左右のバックパックに1基ずつ収納されていたとする説もある。サーベルデバイスはリミッター機構を備え、斬撃の直前までビーム刃を発生させないことでエネルギー消費を抑える設計となっている。また、柄にある発振部には扁平なビーム刃を形成させるバイアス発生路が採用されていたと言われている。



幅広いビーム刃を形成するリ・ガジのビーム・サーベル。当時はビーム刃の形状が多様化した時期でもあった。

5thルナでMSN-Q4、サザビーと格闘戦を演じたが、ビーム・サーベルの出力で劣る力負けする場面も見られた。



### ■腕部 腰部

#### グレナード・ランチャー

腕部と腰部サイド・アーマーには、2連装グレナード・ランチャーを備える(各2基ずつ)。それぞれ構造が異なり、腕部のは原型機と同じ束状式で、グレナード弾は腰部のものより小型だが有効範囲は広い。腰部ランチャーは弾体の一部が露出した可動式で、発射時にコウビットのターゲットに運動して対象に向けられる構造となっている。

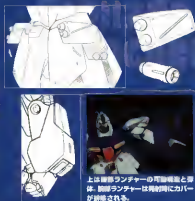


腕部グレナード・ランチャーは非発射状態で腰部のランチャーの有効性が実証された。MSに致命打を与えることも可能。

腕部グレナード・ランチャーを発射するリ・ガジ。主兵装というより隠し武器としての性格が判ったと見られる。

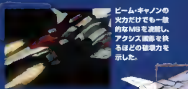






上は頭部ランチャーの可動機構と本体。頭部ランチャーは発射時にカバーが移動される。

シールドはシンプルで、目録通りにマウントされる。頭部バルカン砲は左めがねに開口が位置している。



ビーム・キャノンの火力だけでも一般的なMSを凌駕し、アクシス部隊を撃てるほどの破壊力を示した。

ビーム・キャノン



ハンド・グレナード  
メガ・ビーム・キャノン

プロベラントタンク

プロベラントタンク

ビーム・キャノン

## ■頭部バルカン砲 シールド

頭部には口径60mmのバルカン砲2基を内蔵している。標準的な近接戦闘用固定武装だが、使われる場面はあまり多くなかったようだ。シールドは特別な機能を持たないスタンダードな防弾装備で、運用性と耐久性を重視した構造となっている。また、シールド裏にはハンド・グレナード3発をマウント可能なだった。ハンド・グレナードはMS形態での運用を想定した投擲兵器で、高速巡航形態でも発射できたかは不明。



BWSを切り置きリ・ガスィ。機体下面を保護していたシールドがすでに頭部に展開されている様子が見える。



BWS展開時のシールドの内部は自動で折りたたまれるが、展開の順番などでは確認できないケースも発生した。

## ■バック・ウェポン ・システム (BWS) の武装

BWSは、機背に大口徑ビーム・キャノン(「メガ・ビーム・キャノン」とも呼ばれる)1基と、側部にビーム・キャノン2基を備える。どちらも高速巡航形態で運用可能な固定武装で、特にメガ・ビーム・キャノンはビーム・キャノンとあわせて当時の戦艦の主砲に匹敵する出力を有していたとされる。それを踏まえた総合的な攻撃力は第1次世代MSに相当、あるいは海洋艦並みの戦艦が可能な水準だったとも言われており、さきかめて高い戦闘能力を有していたと評価されている。「シャアの反乱」における運用でも、アクシスを巡る攻防戦でアクシスの機体バリエーション・ノズルの破壊を試み、旗艦レウルクをはじめとするネオ・ジオン艦隊に大打撃を与えている。またBWSのオプションとして、左右の主翼下にプロベラントタンク2基を装備している。ただし、BWS自体が大きな能力を持たなかったことから、このプロベラントタンクはMS本体への推進剤供給を目的としていたようだ。



RGZ-95 リゼ  
(ディフェンサー  
ユニット)



リ・ガスィは標準巡航形態の機動性とBWSに展開された固定兵器の火力によって、単独戦闘機としての優れた戦闘力を発揮した。その設計・運用コンセプトは、同じ開発系に属するRGZ-95リゼルにも受け継がれ、中・後編戦線に特化した仕様のディフェンサーユニット(左翼)なども開発されている。



# 関連 MS ラインナップ



## RGZ-91 Re-GZ リ・ガズィ

変形機構を  
搭載した  
エゥーゴの  
中核機



リ・ガズィ  
の母体と  
なった  
可変 MS



アムロ専用  
として  
設計された  
性能向上機



### ■MSZ-006 Zガンダム

エゥーゴとAE(アエハイム・エレクトロニクス)社の共同開発による第三世代MS。MS形態からWR(ウェーブライダー)への変形が可能で、WR形態では単独での大気圏突入が可能なほか、SFS(サブ・フライト・システム)としても機能する。そのため環境に左右されない通用性と考えられる状況に対応する汎用性が高いレベルで結実した傑作機となった。反面、生産コストや整備性については堪えていない。

### ■MSZ-006C1 エブラス(C1型)

Zガンダムの最終設計を完成し、運用領域の限定と変形機構の簡素化によって生産性の向上を期した派生機。まずウェーブライダー形態の有効性に着目したカラバによって大気圏内長距離飛行に特化したA1型が誕生。これを宇宙用に再設計したのがC1型。さらにC1型を非変形MSに再設計し、SFSとドッキングさせることで機体戦闘形態とする試作・検証試験機(のちのプロトタイプ・リ・ガズィ)が誕生するに至った。

### ■RGZ-91B リ・ガズィ・カスタム

バック・ウェポン・システム(BWS)に依存しない可変機構を備えたカスタマイズ機。BWSは変形機構の簡素化やコスト面では有効だが、取り外すと両膝部に弾薬がかなり、汎用性に劣るのが弱点とされた。そこで両膝、変形機構を廃止した機体としてリ・ガズィを再設計し、アムロ・レイ専用機に仕上げたのが本機である。しかしガンダムが完成したことからは派生は凍結。計画のみが存在する幻の機体となった。



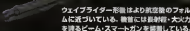
優れた面力を機体  
前線に伝えるため  
に採用機体として  
利用され、機体設計  
を簡化したバグ  
エーション機が試  
作されている。



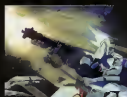
究極テールバイン  
ダーはZガンダム  
と共通する一方、  
フライトユニットは  
飛行能力を強化し  
た独自の形状を採用  
した。



ウェーブライダー形態ではスラスターの推力  
ベクトルを同一方向に向けられることで風圧力を  
回避、大気圏内飛行能力を未開させた。



ウェーブライダー形態はより航空機のフォルム  
に近づいている。機体には長時間、大火力を  
誇るビーム・スマートガンが装備している。



両膝部もリ・ガ  
ズィから一新され  
ビーム・アサルト・  
ライフルやハイ  
パービーム・サー  
ベルを装備する。



リ・ガズィの頭部にはアンテナが2基取り付けられていたが、本機にはガンダムタイプの特徴となるV字アンテナを新設。



《ネエル・アーガマ》にも採用機が搭載されており、ゆえにバンシィ・ノロンに搭載するリディマーセナス少佐も元々はリゼル機だった。



リ・ガシの流れた  
流れた  
屋産型MS



ネオ・ジオンのニュータイプ研究所出身であるギニュー・ガス少佐が指揮。優秀なパイロットだが、クス・バロヤを率いてシャア・アズナブルと対峙した。



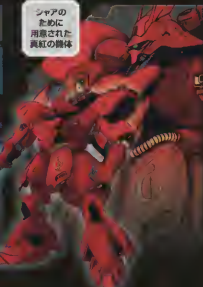
主力生産機  
の設計を  
採用した  
NT 専用機



ネオ・ジオンの総帥となったシャア・アズナブルが指揮。アムロのガンダムを相手に死闘を繰り広げ、最後には両者とも重傷を負っている。



シャアの  
ために  
用意された  
真紅の機体



## ■RGZ-95 リゼル

RGZ-95の機体番号からわかるように、リ・ガシの流れた機体。ただし機体構造は大幅に見直されており、上半身はガンダムの変形スタイルを継承した一方、胴部やバックパックはメタスに近いシンプルな変形機構となっている。さらに内蔵の一部をジェガンタイプと統一することで生産性も向上。リミッターによる一部機能の制限を設けることで、MSの操縦に不慣れた新兵にも扱いやすい機体となった。



バックパックには牽引用グリップが設置され、SF8としての運用を考慮していたことがわかる。実際にジェガンを模倣して作成した機体もある。



機体名は「リファイン・ゼータ・エスコート・リーダー」の頭文字（ReZEL）から取られ、リ・ガシの系列であることがわかる。

## ■MSN-03 ヤクト・ドーガ(ギニュー機)

ネオ・ジオンが開発したニュータイプ用試作MS。ギンド・ドールのメイン・フレームをベースに設計されているが、サイコ・フレームの導入によってサイコミュの小型化問題を解決した。ただし完成した機体はニュータイプ専用機としての要求性能には達しておらず、量産は見送られている。それでも両腕部装甲に外付けされたファンネル(3基×2)は通称攻撃砲台としては優れた性能を示し、本機の支援に役立てられた。



50ヘルナでの機体でリ・ガシと交戦。だがアムロの巧みな戦術を機に、後退を余儀なくされている。



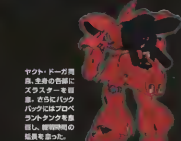
バックパック以外にもシールド・アーマーやサイドスカート、リアスカートに多数のスラスターを有し、優れた運動性を発揮した。

## ■MSN-04 サザビー

ネオ・ジオン総帥が近衛するに相応しい機体として開発されたニュータイプ専用機。コクピット周辺にサイコフレームを採用することで機体運動性の向上とサイコミュの小型化に成功。試演では主兵装のビーム・ショット・ライフルや背部コンテナのファンネル、ビーム・トマホークに加えて、腹部に大出力メガ粒子砲を装備。これによって運動性に優れたガンダムに対して、本機は火力に劣ることが最大の弱点となっている。



作戦の最終段階となったアクシズ上の戦いでは、ガンダムと格闘戦を行い、一歩も引かない意を見せた。



ヤクト・ドーガ同様、全身の色調にスラスターを施す。さらにバックパックにはプロペラントタンクを備え、戦時中の給油を要した。



# MSパイロット——ケーラ・スウ——

## ロンド・ベルの一人としての使命感を背負い 勇猛果敢な戦いの末に散っていった女性パイロット

U.C.0090年代初頭、軍縮傾向の地球連邦軍にあって、数少ない実働部隊として機能した外郭新興部隊ロンド・ベル。だが、同部隊は反地球連邦組織の調査と摘発という任務の重要性に比して規模が小さく、実行力は隊員たちの士気に支えられていた。そのなかで部隊の中心的存在として働いた者のひとりがケーラ・スウであった。

ケーラは「シャアの反乱」当時ロンド・ベルに所属していた連邦軍人のひとりで、艦艦ラー・カイラムのジェガ

ン部隊隊長を務める主力パイロットだった。それ以前の経歴は不明だが、ロンド・ベルにおいてはMS部隊隊長のアムロ・レイに次ぐ腕利きのパイロットとして、アムロやブライトノア司令からも厚い信頼を置かれていた。そして、シャア・アズナブルの決起に端を発するネオ・ジオンとの戦いにおいて、その力を振るうこととなる。だが、ロンド・ベルとネオ・ジオンの衝突は多くの命を呑み込み、ケーラも自らの信念を試されることになるのだった。



ケーラはU.C.0093出陣のロンド・ベルにおいて有数の機體操縦者であるパイロットであり、「シャアの反乱」においてアムロやブライトとともにロンド・ベルの申請を拒否して戦った。



## ケーラ・スウ Kayra Su

### DATA

年齢：不明 所属：地球連邦軍 階級：中尉 出身：不明 能力：MS操縦



ロンド・ベルに所属する連中のラー・カイラムを襲ったネオ・ジオンMS部隊と交戦、レスとも月を交えている。



ラー・カイラムに密着したバサウェイ・ノアを見つけたのがケーラだったが、アムロに助けてアクシズ脱走に助けた。



アムロのものとインナーとスポンの色が異なる機體を操縦した。

### ▶「シャアの反乱」におけるケーラの戦いとその後

U.C.0093 03 月初旬、地球・ラサへの5ヵルナ落とに始まったネオ・ジオンの軍事行動に対して、ロンド・ベルはその阻止にあたった。ケーラはその一員として戦いに臨み、アムロがRX-93 ヴァンダムを奪取した際には、彼に代わってネオ・ジオンの機體に近接。ラー・カイラムを守ってレス・シュナイダーのAMS-119 グラッドと交戦している。また、アムロがヴァンダムに乗り換えてからはリ・ガズラのパイロットとなり、さらなる作戦に備えた。そして、3月12

日にネオ・ジオンが地球寒冷化作戦を実行に移すと、ロンド・ベルはアクシズの地球降下を阻止すべく攻撃を開始。ケーラは第一波の先鋒として出撃する。だが、アクシズに迫りながらもギユネイ・ガスに捕獲される。さらに、ギユネイに捕まるとアムロに投降を迫る人質にされたケーラは、自らの命を顧みずアムロに敵の撃墜を促した。しかし、投降しようとしたアムロの機動を妨げ、激怒したギユネイの機體に乗り込まれ、無残な最期を迎えることとなった。



アクシズを止めるため、軍機でネオ・ジオン艦隊に肉弾したケーラだった。



ギユネイに人質に取られたあげく、ヤクト・ドーガに襲われて命を落とした。





## 我が身を顧みず戦ったケラの気性と彼女を支えたアストナージへの想い

ケラは勇猛果敢で優れたパイロットだったが、高い戦意と責任感の強さゆえに無茶な戦い方をすることも少なくなかった。アクシズの攻勢戦でギニューに捕獲されたのも、防衛線の突破に遡るあまり単独で突出したことが原因のひとつで、ケラの激しい気性が招いた結果だったとも言える。一方、そうしたケラの危うさを心配していたのが、彼女と密仲にあったアストナージ・メドゥツだった。その真逆にも、アクシズ攻撃の前に整備が終わったリ・ガズィを見て「これで自分ひとりではシャアを叩き潰せる」と思ったケラに、アストナージは無茶を戒めようとしている。ケラも彼の優しさを快く思い、彼が作ったサラダを食べる約束を交わして出撃した。だが、ケラは重なり果てた姿でラー・カイラムへと帰還し、アストナージを悲しませる結果となったのである。



涙を流せる女性に勇気を注ぎ、彼女を助けるアストナージに魅せられ、ケラは涙の雨に似たような表情を浮かべた。



ケラはアストナージへの想いを胸に、アクシズへと出撃していた。



ケラの勇気はアムロが驚愕してラー・カイラムに帰還し、アストナージと別れた。

## ケラ・スウを巡るさまざまな人間関係



パーソナルカラーを付いたノーマルスウ。ヘルメットにはパーソナルマークが描かれている。

戦場では勇敢なパイロットとしての顔を見せたが、平時には中性的で気さくな性格で周囲の人間とも親しく接していた。

## ▶歴戦のメカニックマンの最期

アストナージはグリプス戦役と第一次ネオ・ジオン戦争を生きた雄偉なメカニックである。だが悪人だったケラの後を追うように事故死している。



アムロにサイコフレームを届けようとするチェンを阻止したところを、流れ星の爆発に巻き込まれてしまった。

数々のガンダムタイプに携わってきた熟練のメカニックで、温厚な性格が人望も厚かった。



## ▶MAIN MS

### RGM-89 エゲガン

アナハイム・エレクトロニクス社が開発した連邦軍主力MS。ロンド・ベルの主力機として配備され、ケラもリ・ガズィ以前に搭乗した。

### RGZ-91 リ・ガズィ

Zガンダムの量産化を目指し、BWSによる簡易変形を採用した攻撃型MS。当初はアムロが乗機としたが、のちにケラが乗り継いだ。





## 損傷を重ねながらも役目を果たした機体

「シャアの反乱」を食い止めるべく実戦投入されたリ・ガズィは、自らの損傷とパイロットの命と引き換えに、ある命途を引き起こした。



戦場の舞台となった宙域

### ■フォン・ブラウン

月面で最大規模の恒久都市。かつては「フォン・ブラウン」を制する者は宇宙を制する」と言われた。AE社のMS工場が置かれており、vガンダムはこの地で完成した。

### ■ロンデニオン

サイド1のコロニーのなかでも最古参の1基。連邦軍外郭新興部隊ロンド・ベルの活動拠点が置かれる一方、地球連邦政府高官とネオ・ジオンの密約の場となった。

### ■ルナツー

小惑星ユノーを地球圏に移動した際に改名されたとの説を持つ。本来は資源採掘用だが、U.C.0080年代からは連邦軍の宇宙における要所として用いられた。

### ■アックス

ジオン公国軍残党が立てこもった小惑星基地。本来はアステロイド・ベルトに建設されたのだが、グリプス戦役の折に地球圏に移動。戦後は連邦政府の管轄下に置かれたが、地球連邦政府高官との間でネオ・ジオンに譲渡するとの密約が結ばれている。

01

### ロンド・ベルへの配備

U.C.0090.03.21、武力的な反地球連邦政府活動の取り締まりを目的とした地球連邦軍外郭新興部隊「ロンド・ベル」が編成された。当初はコロニー住民からの脅威と無策な地球連邦政府との間の板挟みによって成果らしい成果を出せなかったが、U.C.0092.12.22に状況が一変した。シャア・アズナブル率いる新生ネオ・ジオンがスペースコロニー「スウィートウォーター」を占拠したのだ。そこでMS部隊長のアムロレイは自分用の機体としてリ・ガズィを装備。シャアとの対決準備を進めた。



アムロ・レイ・ガズィは性格に不満を抱いており、連邦政府高官の資金援助を受け、vガンダムの開発を手伝った。

02

### 5thルナでの戦い

U.C.0093.02.27、テレビ番組のインタビューを受けたシャアが連邦政府に対する事実上の宣戦布告を発表。続く03.04にはネオ・ジオン艦隊が小惑星5thルナを襲撃し、地球連邦軍本部のあるチベットのラサに落下させるという事件が勃発した。対するロンド・ベルはアムロを中核とするMS部隊を派遣し、5thルナの落下阻止を狙ったのだが、これに失敗。とくにシャアの搭乗するニュータイプ専用MSザビーとリ・ガズィの性能差は明白であり、戦闘終了後、アムロはvガンダムの配備を急がせている。



一説によると、ザビーと接近戦を挑んだリ・ガズィはマシーナ・バリエーターに変装を来たし、後退を余儀なくされた。

03

### パイロット交代

月面都市フォン・ブラウンのAE社工場を訪れたアムロは、配備予定を3日も前倒してvガンダムの整備を強行した。その間、戦況は新たな局面を迎えつつあった。ロンド・ベルの承認なしに、連邦政府高官がネオ・ジオンと接触。アックス譲渡と引き換えに武力防衛の密約を取り付けたのである。しかしアムロは、艦隊引渡しの場となるルナツーに向かうネオ・ジオン艦隊が、ミューと戦った。連邦軍本部の協力を得られぬまま、ロンド・ベルはルナツー空域に向かうこととなった。



アムロがvガンダムの重宝/パイロットになったため、ジオン部隊長のケラータが新たなパイロットに任命された。

## 戦況の経緯

U.C.0093に勃発した第二次ネオ・ジオン戦争（シャアの反乱）において、ネオ・ジオンと交戦したロンド・ベルは、U.C.0090.03.21に設立された連邦軍外郭新興部隊である。ハマーン・カーンが引き起こした第一次ネオ・ジオン戦争をきっかけにした反地球連邦政府活動の活発化を取り締まることが主要な活動内容となった。なかでもグリプス戦役後に消息を絶ったシャア・アズナブルの動向は注視され、コロニーへの捜査権のみならず、コロニーへの駐留や警備、治安維持を目的とする戦艦の許可された。だがロンド・ベルの捜査の捜査にもかかわらずシャアは力を蓄え、ネオ・ジオンの決起を主導している。

### U.C.0088

- ・2月22日 グリプス戦役。終結。
- ・クワトロ（シャア）、行方不明になる。
- ・2月29日 アックス、各サイドに制圧艦隊を派遣。
- ・8月29日 ネオ・ジオン、ダカールを占拠。地球連邦政府にザビ家再興とサイド3譲渡を承認させる。
- ・12月25日 ネオ・ジオンでグレミーが買収。

### U.C.0089

- ・1月17日 第一次ネオ・ジオン戦争。終結。
- ・5月1日 連邦軍、アステロイドの管理体系を強化。
- ・8月25日 連邦軍、スペースノイド帯りのコロニーに対する経済制裁を強化。

### U.C.0090

- ・2月 連邦政府、艦隊収容施設としてコロニー「スウィートウォーター」を建造。
- ・3月 連邦軍、外郭新興部隊ロンド・ベル隊、設立。

### U.C.0092

- ・8月 連邦軍、本部をチベットのラサに移動。
- ・12月13日 ネオ・ジオン、連邦軍に対して攻撃を示唆。

- ・12月22日 ネオ・ジオン、スウィートウォーターを占拠。以後、活動拠点として利用。
- ・12月25日 連邦軍、ロンド・ベル隊を増強。







MSZ-006 Zガンダムの簡易量産機にあたるRGZ-91 リ・ガズィ。数あるZガンダムのバリエーションのひとつであり、BWSにより極めて高い運用性を獲得した。

### KEYWORD

#### ■Z計画

ネーロとAE(アナハイム・エレクトロニクス)氏による可変MS開発計画。いくつかの試作機を経てMSZ-006 Zガンダムが開発された。その後もバリエーション後の開発が続けられた。

#### ■ロンド・ベル

地球連邦軍の外部新興部隊で、反連邦組織の調査などを主任務としていた。プライト・ノアのほか、アムロ・レイが所属しており、「シャアの反乱」においては独自にアウクス落下阻止作戦を展開した。

#### ■シャアの反乱

特に0093に勃発した内戦。シャア・アズナブル率いるネオ・ジオンは、軍事的、政治的な手法を駆使して地球連邦軍を翻弄、「地球圏内作戦」を展開するが、作戦は失敗に終わった。



MSZ-006 Zガンダム

「Z計画」で開発された可変MS。WRI(ウェイブライダー)形態への変形機構を備え、単機での大気圏突入が可能なほか、高い機動力から「グリスバ戦役」における最善戦作に数えられる。後継機が開発されたほか、バリエーション機も多数建造された。

MSA-005  
メタス

「Z計画」で開発された可変機種の試作機。隊部が3本のフレームで構成されている点が特徴。MSとしての性能は決して高いとは言えなかったが、MA形態は高性能を発揮したことから、実戦に投入された。



MSZ-006A1  
ZプラスA1型(テスト機)

大気圏内用の可変MSとしてZガンダムを再設計した機体。少数が生産されたが運用したほか、U.C.0090年代中期にも一部の基地に配備され、運用が続けられていた。なお、帯いカラーリングの機体はアムロ・レイ大尉がパイロットを務めたといわれる。



MSZ-006C1 ZプラスC1型

ZプラスA1型をベースに宇宙用に再設計した可変MS。Zガンダムに匹敵するカログスベックを有するハイエント機。スラスタを増設したバックパックとビーム・スマートガンを装備する。宙空でのセッティングが必要だが、大気圏再突入も可能。



生産

再設計

MSZ-007 量産型Zガンダム

Zガンダムの安型機種をオミットし、頭部ユニットも簡略化することで、低コスト化と量産化を成し遂げようとした機体。目的は達成したもののそれでも他の機体に比べて開発コストは高量、百式系MSの量産が決定したため、開発計画は中止されたと言われる。

計画



MSZ-008 ZII  
(ゼッター)

「Z計画」の系列機のひとつ。可変機構の簡略化と操縦性の改善を図っており、特に前者はMSA-005メタスに近いものを使用、戦用対効果に優れた機体として完成したが、本格的に生産はされなかったが、試作機が実戦に投入されたという。

後継

発展



RGZ-95C リゼル(隊長機)

リゼルの隊長機仕様で、一般機と比べてバックパックが変更されている。このC型はリミッターの上限が解除されているほか、フレームの補強などの再調整が施された。処理によってリゼル本来の性能を発揮した。

発展





## RGZ-91 リ・ガズィ

Zガンダムの副生産機として開発された機体。高コスト化に際する可変機構を廃し、「バック・ウエポン・システム（BWS）」並進時のみ変形が可能となっている。特にBWS装着時の高進巡航（もしくはスペース・ファイター）形態では、高い戦闘力を発揮した。換装系にはバイオセンサーを装備。これによりスベック上はZガンダムに匹敵する。アムロ・レイ搭乗の試作機が「シャアの反乱」に投入されたほか、U.C.0090年代中期にもラー・カラムの地球連にその姿が漏れる。

ZプラスR型を  
経て発展



## RGZ-91B リ・ガズィ・カストム

リ・ガズィの再設計機で、アムロ用に開発されたと言われ、左肩のパーソナルマークからもそれがうかがえる。MS本体とBWSが一体化しており単独での変形が可能となっている点が特徴。ビーム・アサルトライフルに加え、ビーム・キャノンなど武装も豊富。



可変MSの模索と発展

簡易生産

## RGZ-95 リゼル（ディフェンサーbユニット）

Gディフェンサーの発展形ともいえる「ディフェンサーユニット」を装備したタイプ。宇宙空間における強襲用の装備で、aユニットとbユニットの2種が開発された。このbユニットはジェネレーターの増設により、複数のビーム兵器の運用が可能。



## RGZ-95 リゼル

ZIやメタスの変形機構を取り入れて開発された可変MS。内装などをRGM-88 ジェガンと統一することで生産性や整備性を向上。さらに新型OSの搭載で操作性も改善されている。WR形態ではSFBS（サブ・フライト・システム）としての運用も可能。

チーム  
カスタマイズ

強化

リミッター仕様  
（ダウン・グレード）



## RGZ-95C リゼルC型 （ゼネラル・レビル配備機）

地球連邦宇宙軍の地球軌道艦隊機であるゼネラル・レビルに配備されていたリゼル。



MSN-001A1  
デルタプラス

チーム  
カスタマイズ







# 試作機と主力量産機

宇宙世紀の戦場の王者であるMSも、ほかのカテゴリーのマシンと同じく、試作を経て量産化に至る。いわゆる試作MSと主力量産MSである。戦争期にはMSやMAの試作機が積極的に戦場に投入され、主力量産MS開発のためのデータを収集したのだった。

## 相互関係にある 試作MSと主力量産MS

機動兵器の分類方法のひとつに「試作」と「量産」がある。一般には、量産MS開発のためのテストベッドが試作MS、試作MSで得られたデータを基に開発される大量生産前提の機体が量産MSにあたる。これはほかの工業製品全般と同様の構図であるが、試作MSと主力量産MSの場合、兵器というビークルの特性上、特殊な立ち位置にあった。

一般の工業製品の場合、販売ルートに乗るのは量産品であり、試作品が流通することはない。だがMSやMAの場合、官立工廠製にしろ民間企業製にしろ、試作MSも発注元である軍に提供されることが多かった（発注を受けずに企業が独自開発した機体の場合、この限りではない）。軍事機密の塊である試作MSを軍が管理したがるのは当然だが、開発現場自体を軍が管理するケースが少なくないこと、そしてテストにあたって軍の動員が必要となることが大きな理由といえよう。特にMSやMAで、顕著な実戦テストは、交戦権をはじめとする法的な問題やバックアップ体制の確立といったクリアすべき要項が多く、その条件を満たせる軍の関与が必要となりやすかった。



## 「強い」試作MSと「弱い」量産MS

試作MSと主力量産MSに関する一般的な見方に、試作MSは「強い」が、主力量産MSは「弱い」というものがある。一年戦争時の地球連邦軍試作MSであるRX-78 ガンダムと、その量産機RG-79 ジムの関係が知られる。実際の戦闘能力もガンダムがジムを凌駕しており、ガンダムが伝説的戦果を上げたのに対して、ジムは「粗悪品」との悪評が流布されている。

この背景には、ガンダムが探査用外観で開発されたこと、ジムがガンダムの簡易版として設計されたうえ、粗製濫造とまでいわれる体制下で大量生産されたことなどがある(ガンダムとジムが同時期に実戦投入されたため比較されやすかったことも大きい)。また、以後のガンダムタイプが各組織のフラッグシップマシンとして試作された結果、試作MS=高性能というイメージが強くなっていった。

もっとも、これはガンダムタイプや初期RXシリーズには限定される傾向であり、連邦軍系以外ではあまり見られなかった。

## TECHNOLOGY INFO

### 組織で異なる試作・主力量産MSの関係

上述のように連邦軍系のガンダムタイプMSは、高コストながら絶対性能に優れた試作機、費用対効果を重視した量産機という傾向が顕著である。しかし、ジオン公国軍やその後継組織では、試作機とその量産機を比較しても前者が特別高性能ということはない。クロスボーン・バンガードやゼンスカール帝国軍ペスバも、同様であった。

### 連邦系

ガンダムタイプの試作機が高性能なのは確かだが、RX-78以降、ジム系のような全軍共通の量産機は必ずしもガンダムタイプを原型としなくなった。



ジム系はジムI、ジムIIと改良が続けられた。後継機であるジェガンやヘビーガンはガンダムタイプの構造的な量産機ではない。

### ジオン系

プロトタイプ・ザクのように、スペック面で後継量産機に勝る試作MSも少数存在。量産型キュベレイなども、試作MSと互角以上の性能を持つ。



プロトタイプ・ザクの量産機に相当するザクは、スペックこそ前身機に劣るが、新部の自由度や兵装面で勝っていた。

## 試作機と主力量産機の差

一般的に試作MSと主力量産MSは対の存在で、試作MSを基に量産機が開発される。試作MSは理論値や従来機のデータを基に設計されるほか、新技術を導入されており、必ずしも実戦向きでない。主力量産MSは試作MSで洗い出された問題点を解決しているうえ生産数も多いため、安定的な運用が可能となる。

### ■試作機

主力量産MSの開発、新技術の試験などを目的に試作されたMS。テストベッドとして開発されたMSのなかには、実用段階に達していない機体もある。ガンダムタイプMSやフラッグシップマシンの大半は、試作MSとして開発された。



RX-78-2 ガンダム

一年戦争時の連邦軍の白兵戦闘試作MS。ビームライフルやルナ・チタニウム合金製装甲などの革新的技術を採用



### ■主力量産機

試作MSで得られたデータを基に開発された、同一規格のマスプロダクション機。いわゆる主力MSは、このタイプで、マイルドな性能傾向の機体が目立つ。生産数の多さは、整備性や運用性の向上にもつながっている。



MS-06F ザクII型

公国軍の主力量産MS。ザクIIのうち、もっとも標準的な機体。生産性、拡張性に優れる。生産数は3,000機以上。

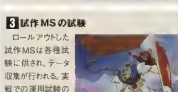


## 試作MSから主力量産MSへの発展

極めて特殊な機体や技術実証機などを除けば、試作MSは主力量産MS開発のテストベッドとして設計される。軍部が要求するコンセプトや仕様などに沿って試作機が開発された後、テストを経て問題点が洗い出され、それを解決する形で量産機が設計される。量産機は先行量産の後、本格的な量産に移行することが多い。

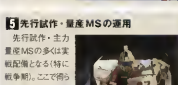
### 1 要求仕様の提示

軍部がMSに求める仕様などが提示される。白兵戦用MSといった基本仕様、他機種との性能比や互換性の有無などが含まれる。



### 3 試作MSの試験

ロールアウトした試作MSは各種試験に供され、データ収集が行われる。実戦での運用試験の実施やそのほか配備となる例もある。



### 5 先行試作・量産MSの運用

先行試作・主力量産MSの多くは実戦配備となる(特に戦争期)。ここで得られたデータは、本格的に生産される後継機に反映される。

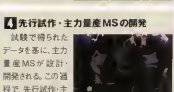


ジムのように、試作MSの試験に先行して設計される例も、その場合、試験データはアップデータなどの形で反映される。



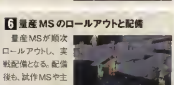
### 2 試作MSの開発

軍部の要求に沿って軍の設計局や企業が、試作MSを設計する。開発中、パーツやユニット単位のテストは順次実施される。



### 4 先行試作・主力量産MSの開発

試験で得られたデータを基に、主力量産MSが設計・開発される。この過程で、先行試作・主力量産機が少数が生産されることも。



### 6 量産MSのロールアウトと配備

量産MSが順次ロールアウトし、実戦配備となる。配備後も、試作MSや主力量産MSの運用データの更新にともない、改修される。





## 試作を重ねての量産化

技術面などの問題から試作に試作を重ねる例もある。ジオン公国における最初期のMS開発が代表的な例であり、史上初のMSであるMS-01(ZI-XA3)からMS-04までの試作MSを経て、初の実戦用MS・MS-05ザクIがようやくロールアウトした。なお、MS-01からMS-04プロトタイプ・ザクまでの4機のうち、MS-03は一度、大規模な改修を受けているため、ザクI完成までに都合5機種の試作MSが存在したことになる(MS-04の型式番号を持つ機体がプロトタイプ・ザクとアーリー・ザクの2機種存在したとの説をとると、都合6機種)。一年戦争時のRX系MSも複数の試作機を経ているという。

MSの試作1号機「MS-01」の完成はU.C.0073。ザクの実戦型のロールアウトはU.C.0075.08。この2年運用データの収集は続いた。

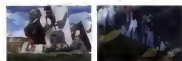


可変MS開発プロジェクト「Z計画」では、様々なMSが同時並行的に試作された。この結果、誕生した試作MSの数は相当数にのぼる。



## 先行試作機と主力量産機

試作機の開発から主力量産機のロールアウトまでの間、別ルートで先行試作機が開発された例。RX-78ガンダムからRGM-79シムのロールアウトまでに、RX-79[G]陸戦型ガンダムとRGM-79[G]陸戦型ジムが先行試作の形で量産された例が代表的である(これは別に宇宙用のRGM-79[E]も開発されたという)。陸戦型ガンダムの場合、MSの早期戦力化を求める連邦陸軍省の要請により、ガンダムの余剰パーツが使用された。陸戦型シムも同様の経緯で開発されたが、シムのデータ収集の意図もあった。



陸戦型ガンダム、陸戦型シムともに生産性は低く、過剰的な機体。4機種のなかで最後発のジムが真の量産機である。



## MORE INFO

### 試作MSと主力量産MSの型式番号

試作MSと主力量産MSは、型式番号で判別できる。連邦軍では、試作機は「RX」、主力量産機は「RGM」が付される。型式番号に「X」を付す機体も試作MSであることが多いが、連邦軍が他組織の機体に付した「AMX」や「XM」は例外だった。



ベスパの場合、試作機は「ZMT」、量産機は「ZM」で区別した。アクシオンやCVに属する機体は型式番号では判別できない。

### 連邦系

#### RX

連邦軍のほぼすべての試作機は型式番号。連邦系でもAE製やサナリ製の機体は、必ずしもこの限りではない。



#### RGM

ジムタイプには「RGM」で始まる型式番号が付される。ただし、ジム系の試作機も同様の型式番号が与えられることが多い。



### ジオン系

#### YMS

公団軍の試作MSでは「YMS」で始まる機体が多い(MS以前のモビルタンクはYMT)。先行量産機でも使用例があった。



#### MS

主力量産MSの型式番号には「MS」が用いられるが、MS-01のような例外も。MAの場合、試作・量産もほぼ「MA」で統一。





## 二系統の主力量産機への発展

1 機種を試作MSから、複数の主力量産MSに派生した例。連邦軍のRX-77 ガンキャノンから、RGC-80 ジム・キャンとRX-77D ガンキャノン量産型の分岐が代表的な事例である(ジム・キャンの直接の前身はRGC-80 プロトタイプジム・キャン、またはRGC-80-1ジム・キャン「テストタイプ」)。ジム・キャンはガンキャノンの變型量産機といえるが、ガンキャノン量産型は試作機に匹敵する性能を有した。ガンダムでも、ジムだけでなく、ガンダムの完全量産化を目標した量産設計種RX-81 ジーラインが計画されている。



一旦分岐したカンキヤノン系の量産機であるが、一年戦争後には国系統の影響下にあるジム・キャンノンを派生した。



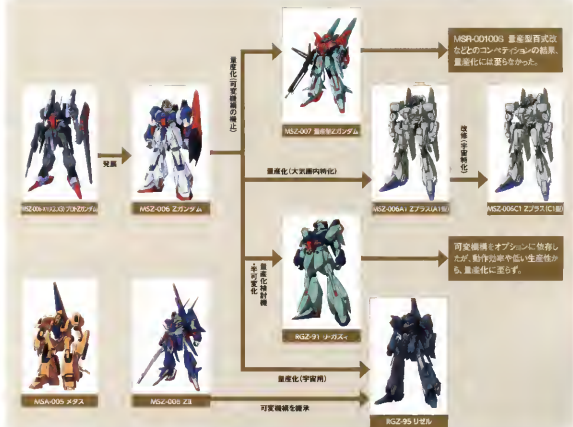
## 多様な量産化の試み

上述の「二系統の量産機への発展」より、さらに多くの量産化が試みられたもの。MSZ-006 Zガンダムの量産化計画が広く知られ、少なくとも4系統の量産化が提案されたという。「グリアス戦後最高傑作機」といわれるZガンダムだが、ガンダム同様、高コストゆえに量産化は困難であった（Zガンダムそのものは数機生産）。そこで

採られた手法が、運用地域の限定と可変機構の廃止または簡略化である。前者の例がMSZ 006A1 Zプラスで、大気圏内用と宇宙用が開発され、量産化に至った。残り3系統は後述だが量産化に手間取り、ほかの「Z計画」系MSの簡易可変機構やジェガンとの互換性確保により、RGZ-95リゼルと量産化に成功した。



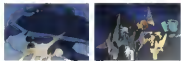
Zガンダムの量産化は簡易化の包み詰めが置かれたようで、第一次ネオジオン戦争後のRGZシリーズで軌道に乗っていった。





## 試作MSの設計統合による量産化

量産化にあたり、複数の試作MSの設計を統合した事例。MS-07 グフが該当し、直接的な原型機であるYMS-07A プロトタイプグフをベースに、統合機種YMS-08A 高機動型試作機のデータが導入されたとされる。連邦軍系列ではAE社製の量産MS-MSA-007 ネロがこのタイプである。ネロはガンダムタイプ2機種のハイブリットと呼べる機体で、上半身はMSA-0012 λ(ラムダ)ガンダム、下半身はMSA-0011 (パイオタ) ガンダム=Sガンダムの設計からなる。この結果、ネロは高級な主力量産MSとして完成した。



グフのランドセルは、高機動型試験機のデータを基に設計されたという。試作機では異機種の技術混用が散見される。



YMS-07A プロトタイプグフ



YMS-08A 高機動型試作機

設計統合



MS-07A グフ型



MS-07B グフ

## 量産機ベースの試作機と、新量産機への技術導入

連邦軍のRGM-89S プロト・スタークジェガンは、RGM-89 ジェガン(A型)をベースに開発された対艦攻撃用試作MSであり、RGM-89D ジェガンD型のオプション換装バリエーションにあたるRGM-89S (DS) スタークジェガンに直接的な影響を与えた。プロト・スタークジェガンとスタークジェガンの基本コンセプトは同様で、総合性能向上型としての側面も持っている。主力量産MSベースの試作MSの技術が、同系列の新型量産MSにフィードバックされた形である。方向性こそ異なるものの、MS-06R-1A 高機動型ザクR-1Aタイプの改修機であるMS-06R-2P 高機動型ザク・クレーン兵器搭載型が、MS-06R-2 高機動型ザクR-2タイプのプロトタイプとなったのに似ている。



プロト・スタークジェガンはジェガン(A型)の改修機、スタークジェガンはジェガンD型に増加装備を施した仕様となっている。



RGM-89S プロト・スタークジェガン

改修(対艦攻撃用)



RGM-89D スタークジェガン

発展

(オプション運用能力付与)



RGM-89D ジェガンD型

データ反映



RGM-89D スタークジェガン

オプション機体(対艦攻撃用)

## MORE INFO

### 量産機不在の試作MS

試作MSのなかには、量産化を前提としない機体も存在する。新技術の実験機、新たな試作MSの開発データ収束用、などが該当する。例えばティタースのTRシリーズ (TR-1~5) は、TR-6開発のためのデータ収束用だった。



MSN-01 サイコム・システム高機動試験機やMAN-09 ブラウ・プロは、MSN-02 ジョングのテスト機であった。

### ■ガンダム開発計画

一年戦争後、連邦系と公団系の技術統合を図り、それを導入した「最強の機動兵器」の開発を目指した計画。試作されたガンダムタイプ群は実験機価値が高く、量産化は未想定。



RX-78GP01  
ガンダム  
試作1号機



RX-78GP02A  
ガンダム  
試作2号機

### ■UC計画

U.C.0100をもってジオニズムを消滅させるための計画。サイコフレームを活用した超高性能MSが開発されたが、フル・サイコフレーム実装試作MSの完成で開発は停止したようだ。



MSN-065  
シナンジュー  
スライム



RX-9  
ユニコーン  
ガンダム



## データのみ継承の開発

試作MSの量産化にあたっては、原型機の基本設計を踏襲しつつ改修を加える場合がある一方で、試作機のデータのみを引き継いで新たな試作MSや主力量産MSを開発する例もある。MS-14 ギルグのテスト機にあるMS-06R-3 ギルグ先行試作型が、これに該当する。高機動型ザクR2タイプをベースに、開発中だったギルグのパーツなどを組み込んだギルグ先行試作型ではあるが、本機で得られたデータを基盤としてギルグが新規に開発されている。試作MS同士ではあるが、サイコミュシステム高機動試験機とジオングの関係も近いもので、ジオングは前身機のデータを継承しつつ純然たる新設計機とされた。



やはり直系の試作機同士か、兄弟機のシンanju(スライム)とユニオンガンダムの基本設計は異なっている。



## 組織の垣根を越えた量産化

特に、MSの試作と量産が別組織で行われるケースがある。サイコ・ガンダム・シリーズからAMX-014 ドーベン・ウルフに至る一連のMS開発がその代表。サイコ・ガンダム・シリーズは連邦軍系のニュータイプ研究所のひとつであるムラサメ研究所で開発されたが、その一般兵向けの試作機といえるORX-013 ガンダム Mk-Vはオーガス研究所で建造された。その後、オーガス研究所のスタッフであるローレン・ナカバがアクシズに移籍した際、後の手引きでガンダム Mk-Vの1機がアクシズに送り、ドーベン・ウルフの開発ベースとなった。そのドーベン・ウルフも後に連邦軍の手にわたり、別の機体に改修されている。



ドーベン・ウルフはガンダム Mk-Vの量産機といえる第四世代MS。水中用ザクの後継機にあたるザクマリアは連邦型



## 主力量産機画系の発展と試作機の技術流入

ジムタイプに代表される主力量産MSシリーズの発展のなかで、改修に際して新試作MSの技術が導入されるケースがある。ジムタイプであれば、RMS-179 (RGM-79R) ジムⅡからRGM-06R ジムⅢへのアップデートに際して、RX-178 ガンダム Mk-IIの技術が採用された。ほかにもRGM-79N ジム・カスタムに、RX-78NT-1 アレクスの影響が見られる。こうした傾向はシオン系では判別しにくく、同一シリーズの運用が長い連邦系で顕著である。運用期間こそ長くない段階だったが、可変量産MSリゼルではウイング・バインダーやメガ・ビーム・ランチャーなど、「Z計画」系で培われた技術を取り入れたオプションが多数用いられた。



ジムⅢはバックバクにガンダム Mk-IIの影響が顕著。リゼルはオプションに百式やZガンダムなどの技術が盛り込まれた。







イラストレーター 杉海斗

## 高性能な試作MSの実戦投入と「量産化」

ガンダムに代表される連邦軍のRXシリーズや公国軍のジオングなど、一年戦争時から試作MSの実戦投入は頻繁に行われている。これは実戦テストだけでなく、実戦力としての投入例も常態化していた。

そうした状況のなかで、実戦に耐える高性能な試作MSを多数生産し、戦力化する傾向が見られるようになった。事実上の試作MSの「量産化」である。可変MSならではの運用性と高い生産性が評価されたMSA-005メテオ、連邦軍傘下のニュータイプ研究所が開発した可変MA・NRX-044 アッシマーなどがその代表である。RX-78 ガンダム、MSZ-006 Zガンダム、MSZ-010 ZZガンダム（のバリエーション機）も量産というほどではないが比較的生产数が多く、数々の戦闘で少なからぬ戦果を挙げた。例えば一年戦争期のRX-78ナンバ一機だけでも、10機ほどが実戦投入されたと考えられている。

見えてわかるように連邦系に多い傾向で、他組織ではあまり見られなかった。

### ■NRX-044 アッシマー

連邦軍傘下のニュータイプ研究所本部が中心となって開発した大気圏内用の試作可変MA。サブ・フライト・システムとMSの組み合わせと比べて、運用性や戦闘能力などに秀でる。



ニュータイプ研所属部隊だけでなく、ダカール守備隊をはじめ、各基地に広く配備



### ■F91 ガンダムF91

サナリイが「F計画」で開発した第二期MS。開発時、「現時点でのMS限界性能の達成」を目指した超高性能試作MSであった。少数量産され、UC.0133の木星戦役などで活躍したといわれる。



量産機は試作機のような「分身」にできないというが、リミッターの解除機能は備える。



## MORE INFO

### MAの量産化

左記のアッシマーを除けば、MAが量産化された例はきわめて少ない（そもそも機體自体が少ない）。それでも量産計画自体は機密されており、公国軍はMA-08 ビグ・ザムの量産化によるジャブロー侵攻を企図したという。ソロモン攻防戦で証明されたようにビグ・ザムの威力は絶大であったが、終戦により量産計画は頓挫した（少数が生産された説もある）。

### MA-08 ビグ・ザム

ジャブロー攻防戦に開発された試作MA。量産仕様機は、大気圏突入とミノフスキークラフトによる飛行が可能とされる。



非可変式MAとしては生産数が多いMA-08 ビグ・ザム。木星戦役でMAが量産化されたとも言われる。

比較的生产数が多いこともあり、ビグ・ザムはリ・アエーションが数機、開発されている。











BWSによる関節変形機構を採用したリ・ガズィだけに、高機動軌形態からMS形態への変形に必要な時期はごくわずか。変形後の船もほとんどなく、すぐに戦線に移行できるのも特徴のひとつである。



# シャアの反乱

第1次ネオ・ジオン戦争。シャア・アズナブルの  
指揮でれたネオ・ジオンが、地球連邦軍と  
を主戦とする「地球圏内化」戦争。この戦争  
結果は外郭新戦線ロンド・ベルがこれに  
関与する事は悪化していき





## 地球滅亡の危機を招来した二度目のネオ・ジオン戦争

U.C.0093、シャア・アズナブル率いるネオ・ジオンと地球連邦軍の間に発生した戦いが「シャアの反乱」(第二次ネオ・ジオン戦争)である。「シャアの反乱」はU.C.0083のデラズ戦争に似た側面を持ち、連邦軍に比してジオン勢力の戦力が圧倒的に少なかった点、紛争の期間が極めて短い点、地球に対する大質量弾攻撃などの類似点が見られる。

小戦力だからこそ、ネオ・ジオンがこうした戦術を採らざるを得なかった側面もあるが、究極的には「地球寒冷化作戦」さえ完遂すれば、地球圏の現状を必要としないという確信も無視できない。ネオ・ジオンの戦略の中心を占めた地球寒冷化作戦とは、小惑星や核兵器の投下で地球環境を劇的に悪化させ、アースノイドに宇宙移民を強制するものだった。

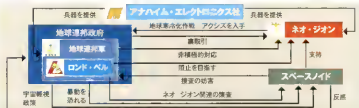
作戦完遂のためシャアは連邦政府を欺くが、連邦軍の一部は彼の真意を看破し、独自の権限で阻止行動に出る。一年戦争でホワイトベース隊を指揮したブライト・ノア、そしてシャアの終生のライバルとなったアムロ・レイが所属するロンド・ヘルである。

### 参戦勢力と戦略・戦術

「シャアの反乱」はシャア指揮下のネオ・ジオンと地球連邦による紛争だが、連邦政府と軍上層部には当事者意識が欠けていた。紛争勃発前からネオ・ジオンと裏取引していた連邦政府は、シャアとの妥協が成立すると考えたのである。実際、ネオ・ジオンは連邦政府に譲歩姿勢を示したが、これは作戦完遂のための戦術であつた。



ネオ・ジオンは連邦政府の実態と事なかれ主義を利用、シャアの真意に気付いていたのは、ロンド・ヘル程度だった。



### ロンド・ヘル

反連邦勢力の捜索・掃討を担う連邦軍外郭新興部隊。シャアの真意を見抜いており、独自の権限でネオ・ジオンと交戦。地球寒冷化作戦の阻止に動く。



### ネオ・ジオン

再編されたネオ・ジオン。スペースノイドの自治権獲得、人類の宇宙移民化を促す地球寒冷化作戦を小戦力で実現するため、連邦政府を戦った。



### 地球連邦政府

地球圏全域を統治する巨大国家連合の政府。1コロニーの自治権と小惑星基地アクレスの譲渡により、ネオ・ジオンとの和平が成立すると楽観していた。



## TECHNOLOGY INFO

### アナハイム・エレクトロニクス社

デラズ戦争以後、地球連邦政府から冷遇されていたAE(アナハイム・エレクトロニクス)社だが、グリプス戦役を契機に地球連邦軍のMS開発を受注するようになった。さらに「シャアの反乱」期には、連邦軍のみならずネオ・ジオンのMS開発も担当しており、以後しばらくの間、AE社が機動兵器市場を独占することになった。

### 連邦軍MSの開発

「シャアの反乱」当時、連邦軍のMS開発は月面都市フォン・ブラウン市のAE工場で行われた。連邦軍の新主力MSエグザムも同工場で開発。



アムロ・レイの乗機となったリ・ガズィやガンダムも、AEのフォン・ブラウン工場で開発された。

### ネオ・ジオンの機動兵器開発

サイコミュ搭載MSの開発開発を契機に、ネオ・ジオンは機動兵器開発をAEグラナダに委託。サイコ・フレームの製造も移管されたようだ。



サイコ・フレーム搭載機のカイト・ドッグ、シャアの特装ザビニなどAEグラナダ工場が開発されている。

### 「シャアの反乱」への道程

第一次ネオ・ジオン戦争末期の内紛で求心力と戦力の多くを失ったネオ・ジオンは、統一かつ大規模な作戦行動が困難な状況に追い込まれた。この状況を救ったのが、シャア・アズナブルとキャスバル・レム・ダイクンであった。グリプス戦役では連邦軍の一派である

エウゴに与したシャアだが、グリプス2攻防戦で方向不明となり第一次ネオ・ジオン戦争にも関与しなかった。第一次ネオ・ジオン戦争終結後、分裂状態にあったネオ・ジオンを取りまとめ、その指導者となったシャアはアースノイドの粛清を掲げて作戦準備に入ったのだ。

### ■ネオ・ジオン再編

第一次ネオ・ジオン戦争でハマーン・カーンとグレイム・トを失ったネオ・ジオンは求心力を喪失したが、シャアによって再編された。



ジオン・ズム・ダイクンの連理であるシャアは、ジオン組織の代表に相応しい人物であった。

### ■スウィート・ウォーターの占拠

組織を再編したネオ・ジオンはAE社やリオル商会と接触しつつ、露民コロニーのスウィート・ウォーターに侵襲。U.C.0092.12.22に占拠を宣言した。



スウィート・ウォーターの住民はシャアを歓迎。ネオ・ジオンは拠点の確保に成功した。

### 地球寒冷化作戦

「シャアの反乱」におけるネオ・ジオンの中核戦術が、地球寒冷化作戦であった。小惑星を落下させることで「核の冬」を招き、地球を居住不可能な状況にしようとした。地球を拠点とする連邦政府に痛手を浴びせつつ、宇宙移民の完全化が可能と見えた。地球への小惑星落下が、ネオ・ジオン構成員や支持者であるスペースノイドの反感を下げるという側面もあったかもしれない。



戦時目標の破壊や示威を目的としたコロニー落としと異なり、地球環境の悪化(と地球住民の粛清)を目指した点が特徴。

### 1 資源小惑星の地球落下

資源探掘用の小惑星を地球に落下させる。軌道変更には核パルス・エンジンを使用。



### 2 地球環境の破壊

小惑星の落下で発生する膨大な粉塵による寒冷化。搭載された核がもたらす汚染で環境を破壊する。





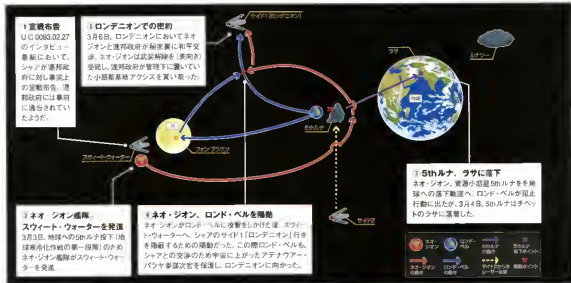
## 5thルナの地球落下とネオ・ジオンとの密約

スウィート・ウォーターの占拠以前から地球連邦政府・軍に敵対姿勢を示したネオ・ジオンだが、その裏で地球寒冷化作戦・第一段階の攻撃目標を連邦政府にリークしていた。これを受けた連邦政府はネオ・ジオンを交渉可能な相手と見なし、連邦軍の中核都市ラサへの5thルナ落下を黙認した(5thルナ移動用の核パルス・エンジン用バレットを、ネオ・ジオンに提供したといわれる)。

5thルナ落下後、ネオ・ジオンと聯邦和平会談を持った連邦政府は、ネオ・ジオンの武装解除を引き換へに、スウィート・ウォーターと小惑星基地アクシズの移送(売却)を認めている。しかしネオ・ジオンに武装解除の意思はなく、地球寒冷化作戦を最終段階へと進めた。



小惑星落下を知らされていた連邦政府だが、高官たちがラサを脱出。ロンド・ベルの警告を無視しネオ・ジオンと交渉へ。



## 小惑星アクシズを巡る戦闘

武装解除を装ってスウィート・ウォーターを襲ったネオ・ジオンは、艦隊を二分して小惑星基地アクシズを制圧しつづ、連邦軍の宇宙拠点ルナツーを奇襲して核兵器を入手した。多数の核兵器を積み込んだアクシズを地球に落下させることで、地球寒冷化作戦を遂行するためである。シャアに和平の意思がないことを理解していたロンド・

ベルは、初動に遅れつつも阻止作戦を展開。最終的にアクシズの分断に成功したものの、その後部分が地球への落下軌道に残ってしまう。これによりアクシズの地球落下は不可避となったはずだったが、謎の発光現象によりアクシズは落下軌道から逸れていった。結果、地球寒冷化作戦は失敗し「シャアの反乱」は終結したのだった。



ネオ・ジオンは作戦の決定打となるアクシズを地球へ、だがロンド・ベルの防戦と未知の現象で作戦は失敗した。







イラスト：一歩 田嶋良彦

## ネオ・ジオンの弱体化と「アクシズ・ショック」

「シャアの反乱」は、地球寒冷化作戦の失敗という形で終結した。戦略的には連邦の勝利である（ほぼ全期間を通してネオ・ジオンと戦ったのは、連邦政府の意向とは無関係に独自権限で動いたロンド・ベルだが）。一方のネオ・ジオンは作戦に失敗しただけでなく、戦力の多くを失ったうえ総帥シャア・アズナブルが未帰還になると、深刻な打撃を受けることとなった。

地球寒冷化作戦の阻止とシャアの本帰還とは、連邦政府を小躍りさせたかと思いきや別の問題が浮上する。アクシズの地球落下を阻止した船団不明の発光現象、いわゆる「アクシズ・ショック」である。

新型サイコ・マテリアル「サイコフレーム」によって引き起こされた「アクシズ・ショック」に強い危機感を覚えた連邦政府および連邦軍は、その管理に乗り出した。だがその一方で、ジオニズムの一掃を掲げる「UC計画」ではサイコフレーム搭載MSを積極的に開発することとなった。

### ロンド・ベル

多大な犠牲を払って地球寒冷化作戦を阻止したロンド・ベルだが、軍内での立場は改善されていない。それでも新型機の優先配備は続いた。



一年戦争の英雄で師のエース、アムロ・レイは未帰還となり、後に戦死認定。

### ネオ・ジオン

シャアの未帰還により、組織の求心力が著しく低下した。さらなる戦力の減少もあり、ネオ・ジオンとしての主体的行動は困難に。



シャアの副官ナナイ・ミゲルや旗艦艦長ライラらもネオ・ジオンを離れたように。

### 連邦政府・連邦軍

連邦政府・軍が受けた被害は顕在的だったが、未解明の部分が大きすぎるサイコフレームの問題が浮上。管理強化の方針がとられた。



翌年にはUC計画を始動し、フル・サイコフレーム実装試作MSの開発に着手している。

## MORE INFO

### ネオ・ジオン残党軍「袖付き」

シャアを失ったネオ・ジオン残党軍の最大勢力は、「袖付き」（連邦軍将兵による俗称）となった。この組織は当初、烏合の衆に過ぎなかったものの、ジオン共和国右派が送り込んだ強化人間「シャアの再来」フル・フロンタルにより急速に組織化。「ラプラス事変」で重要な役割を演じるようになった。



### フル・フロンタル

「袖付き」の首魁。シャアに酷似した外見と声を有する強化人間。



### ミネルバ・ラオ・ザビ

「袖付き」の象徴的存在。行方不明となっていたミネルバ本人である。



# GUNPLA Generation

ガンブラ ジェネレーション

vol.22

## RGZ-91 リ・ガズィ

「Vガンダム登場までの繋ぎ」とではあったものの、アムロ・レイ専用機として劇中に登場したり・ガズィ。その立ち位置を考えると、ガンブラ市場での展開はやや寂しいものとなっているのが実情だ。

### アムロ専用機さえリスクが付きまどった時代

1980年代初期のガンブラブーム時には、ほぼすべてのMSが1/144と1/100の両スケールにて製品化されていた。が、1985年に放映がスタートした「機動戦士Zガンダム」の初期こそ継承されたが、以降の作品ではガンダムタイプの主役機以外は1/144スケールでしか発売されないことが常態化してしまふ。

1988年公開の劇場映画「機動戦士ガンダム 逆襲のシャア」もやはり同様で、1/100スケールで製品化されたのはガンダムのみ。シャア専用機ザザビも、アムロ専用機リ・ガズィも、1/100スケールキット化という高い壁を乗り越えることができなかったのだ。

1987年12月発売の1/144 リ・ガズィ(価格864円)は多色成型が採用されプロポーションも決して悪くなかった。ただしリ・ガズィ最大の特徴であるバック・ウェポン・システムは付属しておらず、少々物足りなさが残ったのも事実。「バック・ウェポン・システム」を付属させ価格を上げるといふ行為に付きまどるリスクを払拭することができなかった時代が存在した事実を、若い世代にはぜひとも知っておいていただきたい。

この時代のガンブラ特有のプロポーションとも言える1/144スケールキット。デザイン画より大脚部が狭く腰から下が長く見える。



統一感を徹頭徹尾させたパッケージデザインとそのイラストは、「逆襲のシャア」関連ガンブラにおける魅力のひとつと言えたりする。

ガンダム・シリーズの長寿化に尽力してきたバンダイ製ガンブラ、その進化の過程を機体ごとに紐解いてみる。

### リニューアル化にようやく変化したバック・ウェポン・システムとの合体

劇

劇場公開から13年後、いよいよ待望のバック・ウェポン・システムが付属する1/100スケールキットが製品化されるに至る。2001年6月発売の、マスターグレードモデル=MGだ(価格4,320円)。

リ・ガズィ本体とバック・ウェポン・システムを合体させる変形機構そのものはそれほど複雑ではないため、当然と言えばそれまでだが、MS側の肩や膝関節、腰アーマーなどには相応の変形合体専用のギミックが設けられた。とく



MGでのリメイクということもあり、プロポーションは格段に進歩。非常に滑々とした体型のMS形態と化した。

に膝関節に関してはいわゆる鳥足状態の変形が強いられるため、二重関節構造が採用されただけでなく、可動～変形を繰り返すことにより生じる関節の磨みを調節することができるピストン留め機構を採用していたのは当時としては優れた設計と言えた。

さらに、同時期のMGは「組み立て完了後にも装甲内部のメカニクスを視覚化させる」という点に重きが置かれていたため、腰から下側の装甲の取り外しが可能となっており、「さすがはMG」と称すべき内容と化していたのも秀逸



MG化により「バック・ウェポン・システム」あての「リ・ガズィ」というあたりまえの事実を改めて体感するに至る。



とくかくアクションポーズが強調に決まるHGUC。可動至上主義にはたまらないアイテムであると言える。

であった。旧1/144スケールキットで素人湯を飲まれた(?)人々からすると、この1/100スケールMG化はまさしく待望の製品化と言えたであろう。つまり「アムロ専用機」ならではの価値観は、ここでもよく残った感があったように思う。また、たった2パーツによる劇場的な構成であったにもかかわらず、バック・ウェポン・システム装着状態で格好よく舞れる専用ディスプレイベースが付属していた点も付記しておきたい。

そしてスケールこそ1/144であるものの、1/100のMGと同等以上のスペックを有する製品が2008年1月に発売されるに至る。ハイグレードユニバーサルセンチュリー=HGUCでのキット化だ(価格3,024円)だ。

バック・ウェポン・システムと合体した高速度航行時にシールドの真横へビーム・ライフルが収納可能であったり、腕部のグレネードランチャーはスライドギミックにより発射準備状態が再現できるあたりはMGと同様で、バック・ウェポン・システムと無理なく合体させるための変形ギミックもMGにはほぼ準じた仕様だが、腕部と脚部の可動領域をゼロから見直したことにより、MG以上にダイナミック、かつ自然なアクションポーズを取れることになったのが最大のポイントといえるはずだ。

別売のアクションベースを2個使用すれば、「バック・ウェポン・システム」の切り離し「シャア」の再現も可能だ。





# NEXT MS

次号予告

ISSUE  
**23**

## お知らせ

諸般の事情により、「ガンダム・モビルスーツ・バイブル」は、しばらくの間、隔週刊での発行にさせていただきます。  
次号、第23号の発売は8月6日(火)です。

## ビグロ

ジオン公国軍開発による宇宙空間戦闘用MA。  
圧倒的な加速性能と機動性を駆使した  
一撃離脱やすれ違いざまの攻撃を得意とする。

お買い得なく安心! 発売日をメールでお知らせします! (ご購読ください)

**発売日お知らせメール**

<https://daagostini.jp/oshrase/gms/>

- 戦場レポート  
軌道上での激戦
- MS機体解説  
機体解説/武装解説
- 関連MSラインナップ  
ビグロと関連機体

- MSパイロット  
トクワンと周辺人物
- MS戦記  
ビグロ 戦闘の記録
- MS進化論  
ビグロ 開発系譜図

- メカニック・ジャーナル  
試作機と豊彦機  
姿勢制御バーニア  
シャアの反乱
- ガンダム ジェネレーション  
宇宙での運用に特化した  
機体を忠実に再現!

第23号

8月6日(火)発売

定価: **本体639円** + 税

※地域によっては送料が異なる場合があります。  
※マガジンの内容が変更となる場合があります。

ホワイトベースとガンダムを翻弄した高機動型MAを検証!

**ガンダムMSバイブル  
専用マガジンケース  
好評発売中!!**

キャンペーン  
期間特別価格

**699円**

(1冊/8%込み)

特価期間: 2019年9月末まで

**定期購読とあわせてのご注文で送料無料!**

※マガジンケース1冊に本誌的10冊分を収録できます。

※何冊でもご購入いただけます。※発売日は変更になる可能性があります。

厚壁に便利な  
ステッカー付き!

01  
02  
03  
04  
05  
06  
07  
08  
09  
10

好評  
発売中

バック  
ナンバー  
ご案内



17 キュレレイ



18 Vガンダム



19 ゲルググM



20 ユニコーンガンダム  
2号機 バンシィ



21 キャプラン

※第1号~第16号も好評発売中。全国の書店でお買い求めください



豊富なビジュアルと資料によって、毎号1機のMSを多角的に解説!

# GUNDAM MS

Mobile  
Suit

# Bible

THE OFFICIAL

ガンダム・モビルスーツ・バイブル

RGZ-91 / リ・ガズィ



22

2019.8.6 / 8.13 合併号

## リ・ガズィ

Re-GZ

# RGZ-91

Total Height : 20.5m  
Weight : 24.7t  
Total Weight : 55.2t  
Material : Gundarium Alloy  
Generator Output : 2,550kW  
Thrusters Total Propulsion : 67,600kg



傑作機の簡易・量産化を目指して、誕生した試作MS



DeAGOSTINI



**GUNDAM**  
**MS Bible**  
THE OFFICIAL Media Force ガンダム・モビルスーツ・バイブル  
RGZ-91 / Re-GZ

## ガンダム・モビルスーツ・バイブル 第22号

【発行日】2019年8月13日  
 【発行】株式会社テグスティーニ・ジャパン  
 〒104-0054 東京都中央区豊どき5-2-15 EDGEE 豊どき  
 【発行人】谷 龍二  
 【編集人】クロス中山 美子  
 【アートディレクター】今堀 健司  
 【刷】国書印刷株式会社

Copyright © 2004 by Daigenshiki Japan. All rights reserved.  
 本書の著作権は、大映株式会社に帰属します。  
 本書の複製・転載は、法的に厳禁されています。

【編集協力】株式会社アッシュ（岡本晃一、渡辺洋三） 高村幸雄  
【テキスト作成】坂口雅仁／杉山和義 ささのあきひろ／巻島陽人  
【イラスト作成】水下ともたけ、村尾卓弥  
【デザイン】株式会社アッシュ（山本陽香）／出崎 勉  
【印刷】株式会社サンプライズ／株式会社バンダイスピード

●お客様サポートのご案内



■WEB上でも、お客様からの  
よくある質問と回答を掲載しています。



■メールでのお問合せ  
お問合せは必須です。  
<https://da-daonline.jp/support/mail>

■ お客様サポートセンター（本館関係の一般的なご質問を扱います）

☎0570-004-109 (月～金 10:00～18:00 土日祝日を除く)  
※お問い合わせが大量になっております。お客様の困りごとを迅速に解決できるようお答えいたします。  
※受付時間外は、お電話が通じません。上記の受付時間でお問い合わせください。

## バックナンバー／取納ケース注文のご案内

本書のバックナンバー / 収録テーマは毎巻の終りでご注文ください。なお、バックナンバーの在庫数には限りがございますので、その旨ご了承ください。直営（印刷課）・代理店（ご注文）のご注文も承っております。上記お客様受注センターまでお問い合わせください。

※本誌の記事、写真、動画等は無断で転写（コピー）、転載することを禁じます。  
※本誌は協会に200円、発行所の収入が協会の収入、権利の放棄はしないことと決まっていますので、予めご了承ください。

## 定惠高麗のご案内

「ガンダム・モビルスーツ・フライング」は知床大滝1発売のマガジンシリーズです（一部地域を除く）。シリーズは全100号を予定しています。シリーズ全号が確実に手元に入るように、書店を巡っての定額購読をお勧めいたします。毎月の単位で、定額購読または予約購読をご利用ください。また、定額定額購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. お客様受注センターに電話またはファクスで  
☎0120-300-861 (10:00～18:00 年中無休※※※)  
☎0120-624-351 (受付時間外、商品受取までお問い合わせください。24時間受付)
2. インターネットで  
<https://deangotoko.jp/gms/> (24時間受付)
3. 定期購読申し込み郵便物を郵送  
※定期購読の申し込みは、必ずしも必要ない場合があります。お客様受注センターまでご連絡ください。  
※お問い合わせは、必ず「定期購読」の欄に「定期購読」の旨を明記し、ご返信いただけます。

■本誌の最新情報をCHECK!

<https://deagostini.jp/gms/>

デアゴ ガンダム

## 檢索



「この本は、日本人が海外で働くための基礎知識、アパレル・ファッション・サービス系の仕事に特化した。各専科の知識・ノウハウが、この本に凝縮されている。海外で働く日本人の多くは、この本を手に取り、海外で働くための基礎知識を身につけている。この本は、海外で働く日本人の多くにとって、海外で働くための基礎知識を身につけるための第一歩となる。この本は、海外で働く日本人の多くにとって、海外で働くための基礎知識を身につけるための第一歩となる。この本は、海外で働く日本人の多くにとって、海外で働くための基礎知識を身につけるための第一歩となる。」

